DISCOVER TAMBA Vol.44

きらめき企業

フランスベッド

「豊かさとやさしさ」のある暮らしの実現 フランスベッド株式会社 兵庫工場

何をしている会社？

フランスベッド㈱は、家庭用ベッドから介護用ベッド、さらにホテルで使用される業務用ベッドまで、たくさんの種類のベッドを製造する会社です。多くの日本人が畳の上で寝ていた時代（昭和31年）に、欧米で人気があったベッドが国内でも普及すると考え、その製造を開始し、現在、国内トップシェアを占めるまでに成長しています。山南工業団地にある兵庫工場では、主に家庭用ベッドのマットレスを生産しています。

ここが一押し！

同社では、普段畳の上で寝ている人でも、愛用してもらえるようなベッドの製造を追求し、特にマットレスにその思いが込められています。マットレスの内部に特殊なバネを埋めこみ、体圧を分散することで、理想の寝心地を実現。また、内部に湿気が溜まらないよう通気性のよい構造とすることで寝苦しい季節でも快適な眠りにつけるよう工夫されています。

兵庫工場で製造された家庭用ベッド。

では、気になるベッドの値段は高いのでは？と思いきや、外注せずに自社の工場で必要なパーツをすべて製造しているため、コストを抑えることができ、低価格な製品が揃っています。種類も豊富で、ベッドの大きさや収納があるものなど、約500種類のタイプからマットレスの柔らかさをセミオーダーで選ぶことができます。人それぞれ好みが違うため、その人、その人に応じたものを提供できるよう、たくさんの種類のベッドを用意しているのです。

兵庫工場には、ショールームが隣接しており、定期的に展示会が開催されています。みなさんも一度、足を運んでみませんか。あなたにピッタリのベッドが見つかるかもしれませんよ！

ベッドだけでなく、ソファなどインテリア製品も製造しています。

［会社概要］
■所 在 地　丹波市山南町梶７番地
■電話番号　0795 - 77 - 1051
■主な事業　ベッド、インテリア製品の製造
■従業員数　77 人

きらめき★インタビュー 若手社員の声

INTERVIEW

トップからのメッセージ

工場長　清水　勉 氏

国内メーカーにもかかわらず、「フランスベッド」という会社名･･･その理由をよく聞かれますが、設立した当初は違う名前でした。初めてベッドを製造した当時は、多くの日本人が欧米の生活に憧れていて、なかでもフランスはおしゃれなイメージがあったので、憧れを込めて製品名のフランスベッドという社名になりました。

今後、兵庫工場では、定年退職者が増えるため、今まで以上に新卒採用に力を入れたいと思います。元気で、前向きに頑張れる方、ぜひ一緒に働きませんか。

同世代の仲間を待ってます！

婦木　強さん（24）　荻野良司さん（24）

●荻野さん
同期の婦木くんと労働組合の青年部の役員をしています。入社したときに比べて、同世代の社員が増え、青年部の活動にやりがいを感じています。楽しいイベントを計画して、これから入社してくる新しい仲間と交流を深めていきたいですね。

●婦木さん
地元の有名企業に就職したかったので、一部上場企業であるこの会社に入社を決めました。今年で7年目になりますが、自分がここまでこの仕事を続けることができたのは、周りの先輩が支えてくれたお陰です。今度は、自分が後輩を支える立場になりたいです。

News ① 大手会館の新たな歴史

大手会館「たんば黎明館（れいめいかん）」がリニューアルオープン

明治 18 年に氷上郡立高等小学校として創建された県指定重要有形文化財の大手会館のリニューアル工事が完成し、３月 19 日、竣工式が行われました。

柏原高等女学校、柏原高校同窓会館などを経て、県内に現存する最古の近代洋風学校建築が往時の姿をそのままに、「たんば黎明館」として新たな歴史を刻みはじめます。

柱や床など老朽化した部分を修復。全面的に塗装を施し、昭和以前の趣が現代によみがえりました。

「たんば黎明館」の外観。創建時からの姿を今に残しています。

㈱まちづくり柏原が指定管理者として「たんば黎明館」を運営。４月２日、大阪やパリで４店舗を展開するフランス料理店がオープンしました（写真右）。

教育者として日本の国語教育に偉大な功績を残した芦田恵之助氏など、丹波市ゆかりの人々を紹介したパネルが建物の歴史をいっそう引き立てています（写真左）。

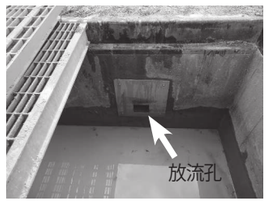
News ② 河川や水路の洪水の負担を軽減

市内で初の校庭貯留施設が完成しました！

兵庫県の総合治水条例に基づき事業を進めてきた丹波市で初めてとなる「校庭貯留施設」が、３月に氷上中学校に完成しました。

降った大雨が一度に流れるのを抑制し、少しづつ流すことで、河川や水路の洪水の負担を軽減させます。

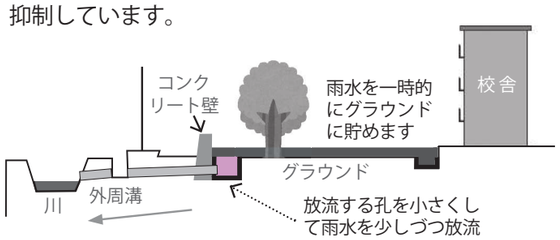
完成した校庭貯留施設。約 30 センチのコンクリートを設置し、集水桝へと雨水を送ります（写真左）。



雨水を集める集水桝に設けられた小さな放流孔。徐々に水を河川へと流し、下流への負担を軽減させます（写真右）。

Q 氷上中の校庭貯留施設の仕組みって？

グラウンドの周囲に約 30 センチのコンクリートの壁を設置し、河川につながる２カ所の集水桝の放流孔を小さくするこで、約 1.9 ヘクタールの広さのグラウンドに降った雨水を一時的に貯留し、流出を抑制しています。



Q どんな効果があるの？

弱い雨のときは、グラウンドに雨水が貯まらずに河川や水路へと流れます。一方、ゲリラ豪雨などの激しい雨が降った場合は、最大で約 1,000 立方メートル（25 メートルプール約２杯分）の雨水を貯め、約２時間かけてゆっくりと水路に流すことで、河川や水路の洪水の負担を軽減させる効果が期待できます。